

COMPASS



答えの無い問いを探していく。そんな時代だから目指す方位を指し示すものが要る。そのようなものに私はなりたい。

次年度に向けて

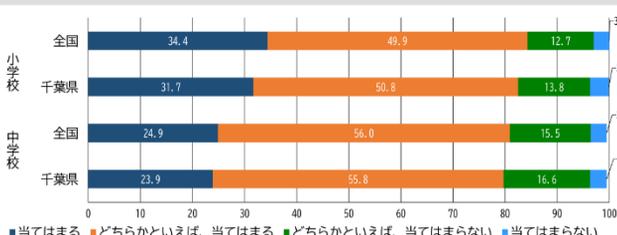
再確認 「全国学力・学習状況調査」を実施する目的

学校における児童生徒への**学習指導の充実**や**学習状況の改善**等に役立てる。
さらに、そのような取組を通じて、教育に関する**継続的な検証改善サイクル**を確立する。
(令和6年「全国学力・学習状況調査」実施要領 一部抜粋)

令和6年度全国学力・学習状況調査 振り返り

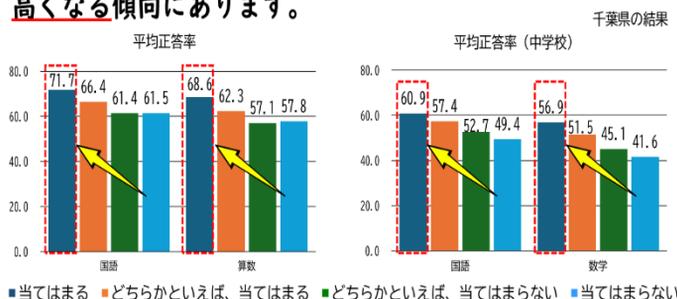
質問調査【個別最適な学び】

児童質問調査(小)(32)
5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか
生徒質問調査(中)(32)
1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか



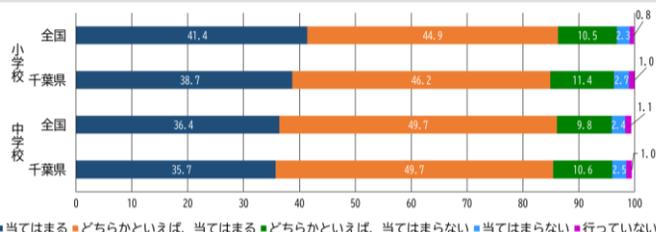
【個別最適な学び】×【各教科の正答率】

「自分にあった教え方、教材、学習時間などになっている」と回答した児童生徒は、教科に関する調査の平均正答率が高くなる傾向にあります。



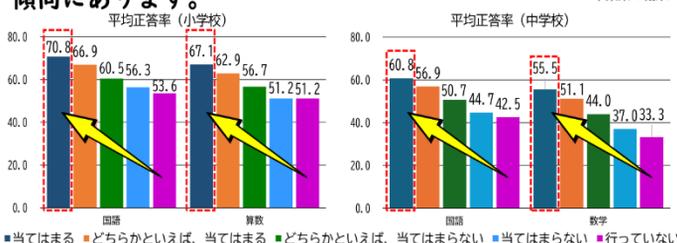
質問調査【主体的・対話的で深い学び】

児童質問調査(小)(33)
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか
生徒質問調査(中)(33)
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



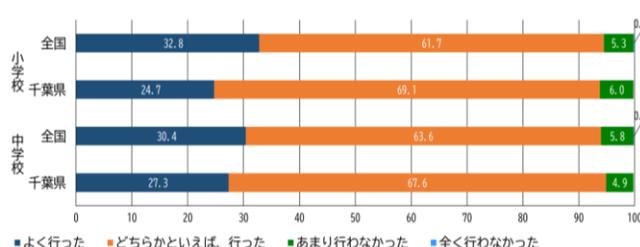
【主体的・対話的で深い学び】×【各教科の正答率】

「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した児童生徒は、教科に関する調査の平均正答率が高くなる傾向にあります。



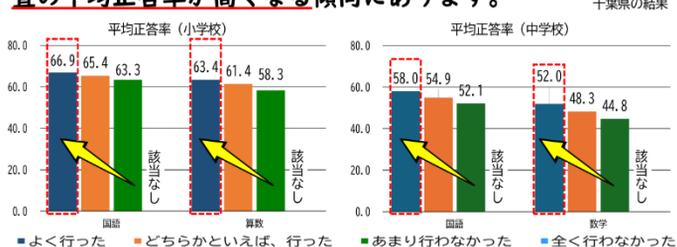
質問調査【授業改善 (主体的・対話的で深い学び/個別最適な学び・協働的な学び)】

学校質問調査(小・中)(31)
調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学習指導において、児童(生徒)が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか。



【授業改善 (主体的・対話的で深い学び/個別最適な学び・協働的な学び)】×【各教科の正答率】

「他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫している」と回答した学校の児童生徒は、教科に関する調査の平均正答率が高くなる傾向にあります。



質問調査に
授業改善の宝の山が！

☆平均正答率による分析だけでなく、多面的・多角的な分析を！

☆質問調査を活用して、学校の課題を明確に！



令和7年度全国学力・学習状況調査について

令和7年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領が文部科学省から示されました。その内容について、お知らせします。



令和6年度からの主な変更点

- 教科に関する調査について、国語、算数・数学に加えて小・中学校調査において理科を実施します。
- 中学校調査のうち理科のみC B Tで実施します。(C B T:コンピュータ使用型調査)
※中学校理科は、ネットワーク負荷軽減のために日時を適切に分散して実施します。
- 小学校国語・算数・理科、中学校国語・数学に関する結果返却・公表はこれまでと同様、**正答数(率)**をベースに行うが、**中学校理科**に関する結果返却・公表については**I R T**に基づいて算出されたスコアをベースに行います。

そもそも I R T って何?

I R T (Item Response Theory)・・・項目反応理論

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。

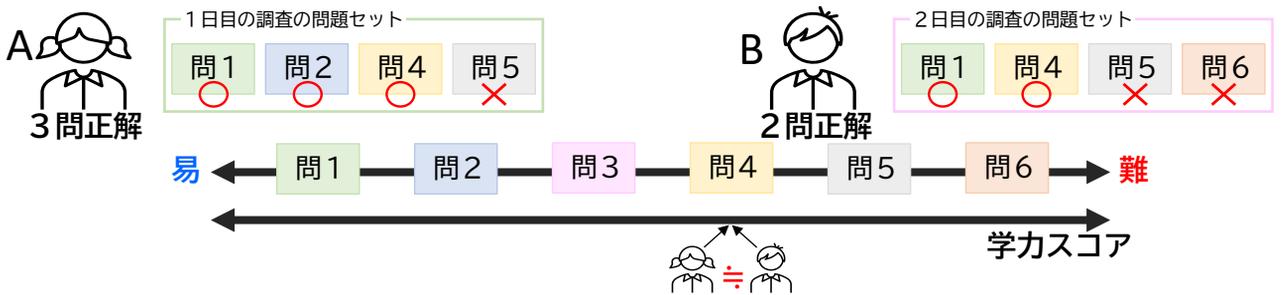
【I R Tのメリット】

- ①異なる問題からなるテストの結果を互いに比較することができる。
⇒日時を分散した実施が可能となります。
- ②異なる集団で得られたテストの結果を互いに比較することができる。
⇒全国平均等との比較だけでなく、各学校での経年による比較が可能となります。



I R Tに基づく調査のイメージ

調査日を分散して実施する(調査参加日が異なる)場合



生徒Aと生徒Bは異なる問題セットに解答し、その正答数は異なるが、難易度が同じ問題を正答しているため、I R Tに基づいて算出される学力スコアはほぼ同じと推定される。

学力向上の窓

千葉県では、全国学力・学習状況調査に関連する資料を作成しています。教材研究や授業改善に生かせる資料となっているので、活用してみてください。

- ① [令和6年度全国学力・学習状況調査活用の手引き](#) [千葉県総合教育センター]
- ② [学力向上通信・授業実践アイディア例・課題別実践アイディア例](#)
(授業全体や単元全体を見通した授業改善の具体例など)
- ③ [ちばっ子の学び変革推進事業](#)
(全国学力・学習状況調査の結果分析を活用した授業改善)



②については、表面二次元コード参照